

神奈川県の高等学校の沿革史の比較研究

米田 俊彦（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

高等学校の学校沿革史は、各都道府県において、創立時期が早い学校（いわゆる「伝統」ある学校）から順次編纂、刊行される傾向がある。50年、70年、100年など、一定の長さの周年数に達すると、同窓会が奮起して大きな規模の周年記念事業が企画され、その一環で沿革史が編纂される場合が多い。したがって、歴史が古い学校ほど早く沿革史が刊行される。

また、旧制中学校を前身とする高校の沿革史は、高等女学校や実業学校を前身とする高校の沿革史よりも充実した内容の沿革史を刊行する傾向がある。学校沿革史編纂事業は、資料の収集や編纂作業の費用の負担を含めて同窓会の支えによるところが大きい。旧制中学校やその後身の高校の卒業生は、その地域の政治、経済、社会などの各領域の有力者、著名人になっている人々が多く、同窓会組織が充実している。また、そういった学校ほど、自らの歴史的伝統を沿革史に記録することへの期待が強い。したがって、旧制中学校を前身とする高校の沿革史は充実した内容のものが多い傾向がある。

しかし同時に、学校沿革史は、先行して刊行された沿革史を参考にしながら工夫して編纂される。後から刊行される沿革史ほど、参考にする前例が多いので、より充実した沿革史を刊行することが可能であるとも言える。

筆者は、長野県の高校の沿革史を網羅的に調査し、その叙述の仕方を分析、検討した結果をまとめたことがある（『学校沿革史の研究 高等学校編 1—長野県の高等学校沿革史—』（財団法人野間教育研究所、2011年）。本研究は、この長野県の事例研究に続くものである。

今年度は、県立の希望が丘高校、小田原高校、厚木高校および横須賀高校の沿革史の内容を検討した。旧制の第一から第四までの中学校を前身とするこの4校の沿革史は、これまでにそれぞれ順に4冊、3冊、4冊、5冊刊行されている。各校は、外形的には似たような形のを順次刊行してきた（最初は薄い記念誌を出し、次に写真集を出し、100年で2分冊の分厚い冊子を刊行）。いずれも同窓会の大きなバックアップによって沿革史を刊行してきたことが理解される。ただし、学校沿革史を歴史書という側面から見て、史料の裏づけをふまえて客観的でリアルな通史が叙述されているかどうか検討すると、長野県の高校

の沿革史に比べて、必ずしも充実した内容のものにはなっていないように考えられる。まだ検討を始めたばかりであり、引き続き他の高等学校の沿革史の検討を続けていく予定である。

なお、本研究は本COE拠点教育社会格差領域における研究であるが、財団法人野間教育研究所日本教育史研究部門学校沿革史研究部会における共同研究と兼ねて実施している。